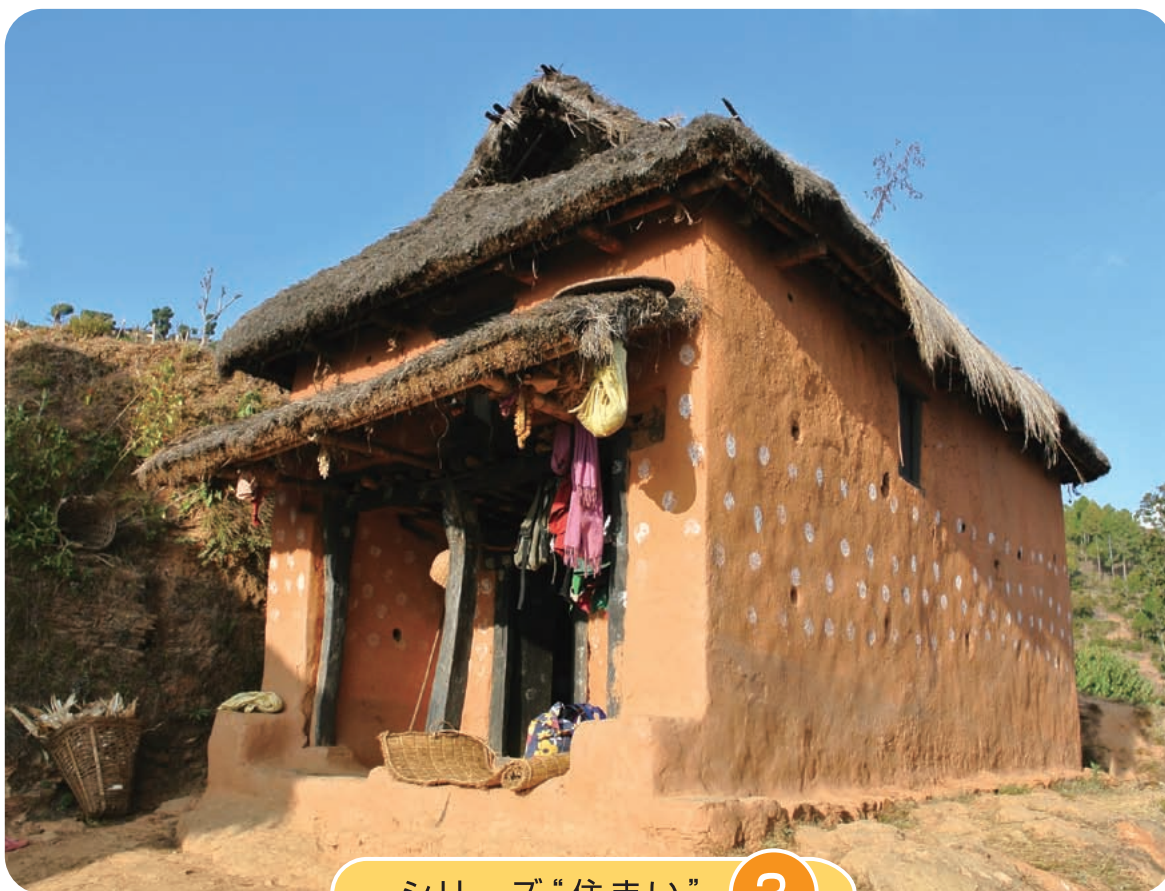


チャイルド・ファンド・ジャパンだより

[スマイルズ] 2012年2月NO.26

SMILES

<http://www.childfund.or.jp>



シリーズ“住まい”

3

チャイルドの住む家(ネパール)

石と土でできた壁に、仕上げに土を水で溶いたものを塗ります。屋根は草の茎で葺いてあり、内部は2階建て。1階は一間で台所、夜は寝間になる場所があり、蓆を敷いて寝ます。窓はありません。2階は穀物の貯蔵庫です。白い模様は、光のお祭り「ティハール*」のときの飾りです。

*SMILES22号 2011年2月でご紹介しました。

写真: センター名 エデュケーション・フォー・ホープ(ネパール、ラメチャップ郡)

ChildFund
Japan

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。



～ スポンサーシップ・プログラムを支える人々 ～

その3 国別事務所



～ スポンサーシップ・プログラムを支える人々 ～

その3

国別事務所

皆様のご支援がチャイルドや家族、地域の人々のために効果的に用いられるよう、支援国のネパール、フィリピン、スリランカには、チャイルド・ファンドの事務所が開設されています。スポンサーシップ・プログラムによる支援の成果をあげるため、各国の事務所は、パートナー団体(フィリピンの場合はセンターに当たります)の年間の事業計画と予算を検討すること、パートナー団体のスタッフをサポートすること、実施されているプログラムのモニタリングと評価を行うこと、スポンサーシップ・プログラムの方向性や重点課題を示すこと、会計監査を定期的に実施すること、新しい支援地の調査をすることなどの大切な役割を担っています。

今号は、こうした役割の一端を、ネパール事務所(以下、ネパール オフィス:NOと略)スタッフのアルン・ラマさん(以下、アルンさんと略)の働きを通して紹介します。

今、必要とされている仕事



アルンさんは支援者サービスを担当しており、毎月1週間は、活動地域のラメチャップ郡を訪問します。カトマンズからラメチャップまでは、1日2便の屋根まで人が乗るほど混むバスで10時間かかります。カトマンズから直線距離では90キロですが、でこぼこの悪路、曲がりくねった山道で、バス路線の距離は220キロにもなります。アルンさんの仕事は、チャイルド・ファンド・ジャパンのパートナー団体であるRBPW(ラメチャップ・ビジネス・アンド・プロフェッショナル・ウィメンの略)を訪ね、プログラムの実施状況を視察し、RBPWのスタッフに助言することです。今まで女性の権利などに関する活動をしてきたRBPWは、スポンサーシップ・プログラムの実施は初めてで、スタッフの技術や能力を高めることが、今一番重要な課題です。



現場で人を育てる



今回アルンさんは、RBPWのプロジェクト・スタッフの一人であるカルパナさん(18歳)*が、チャイルドのチャンドラ君の家庭を訪問するのに同行しました。プロジェクト・スタッフは、少なくとも月に一度家庭訪問をして、チャイルドや家族から近況を聞き取ったりスポンサーさんの手紙を渡したりします。その日、チャンドラ君が親の言うことをきかず学校へ行きたがらないと、母親のティカマヤさんから聞いたカルパナさんは、チャンドラ君に「なぜ学校へ行かないの?」と問い詰めるように訊きました。チャンドラ君は



家庭訪問記録用紙を見ながらコメントするアルンさん。

チャイルドの家の庭先で母親と話をしているカルパナさん。(右)

▼ もじもじして答えようとしません。アルンさんが「学校に行きたくないのは、何か嫌なことでもあったの?」と聞き直しました。すると、チャンドラ君は「嫌なことはないけど、朝学校に行くとき眠くて、それで行きたくなくなる」と答えました。アルンさんは、訪問を終えたカルパナさんに、問い詰めるような訊き方は場合によっては相手を責めることになること、相手の立場に立って答えやすいように質問の仕方を工夫すること、そして本人を認めて励ますことの大切さなどを、一つひとつ細かく丁寧に助言しました。カルパナさんは、アルンさんやRBPWの他のスタッフからの助言が、家庭訪問を実践するうえでとても役に立っていると話しています。

*チャイルドや家族を訪問するスタッフのほとんどが18歳から23歳で、10年の勉強を修了しているが、社会経験は決して多くない。



集会のその後、司会・進行役のスタッフ、ドゥルガさん(19歳)に助言するアルンさん。頭にかぶっているのは、ネパールの帽子「トピー」。



月1回、地域で開かれるチャイルドたちの集会。



山間を歩いてチャイルドの家庭を訪問するスタッフ。

ネパール事務所(NO)の役割



「皆さん、ナマステ!」 NOのスタッフ。

NOは、スポンサーシップ・プログラムを含めた支援事業の調整を進めるため、2006年に開設されました。現在、田中真理子事務所長のもと、8名のスタッフが勤務しています。田中事務所長は、在ネパール26年、長年ネパール子どもたち、地域の改善のために働いています。

「スポンサーの皆さんにはチャイルドたちをご支援いただき、ありがとうございます。RBPWをバックアップし、組織としての能力を高めることにNOは力を入れています。今までに支援地で一番うれしかったことは、学校が嫌いだったチャイルドが、朝早い補習クラスで、(次ページにつづく)

寒い中白い息をはきながら一生懸命勉強している姿をみたときです。これがチャイルドの未来をより明るいものとする基礎となるからです。今後は、ラメチャップ郡以外の新しい郡でスポンサーシップ・プログラムを開始するために、これまでの経験をいかして取り組んでいきたいと考えています。」

「チャイルドと人々とともに歩む活動をしていきます」

田中事務所長



「私たちが、チャイルドの健康と成長をサポートし、スポンサーの皆さんとの懸け橋になります」

支援者サービス担当の
アニタさんとアルンさん



「会計の仕事に慣れていないRBPWのスタッフにチャイルド・ファンド・ジャパンの会計システムを覚えてもらうのに苦労しました」

会計担当のカマルさん



「新たな支援地域を調査しています」

プログラム担当のビルさん

アルンさんからスポンサーの皆さんへのメッセージ

「ナマステ(こんにちは)! ラメチャップのチャイルドたちに対するスポンサーの方々のご支援に本当に感謝しています。スポンサーの方からのお手紙に、ネパールの季節のことやお祭りなどの文化について知ることができてとてもうれしい、など書かれていることがあり、チャイルドとスポンサーの方々の両方が理解し合い、良い交流をしていることが分かります。そのお手伝いができることがとてもうれしいです。しかし、お手紙をもらえない子どもたちが、まだ大勢います。この子たちは、手紙をもらったチャイルドたちを羨ましく見えています。簡単なカードやお手紙で結構です、どうぞチャイルドに送ってください。」

取材後記

アルンさんに同行して、車に揺られながら、悪路を1日ばかりでカトマンズからラメチャップまで移動しました。今回の取材を通して、アルンさんを始めとするNOのスタッフがRBPWを地道にサポートすることにより、プログラムが着実に実行され、スポンサーの皆様とチャイルドとの手紙の交換ができること、成長記録などのご報告を確実にお届けできることを実感しました。NOとも協力しつつ、ご支援くださる皆様とチャイルドや家族、地域の人々との「つながり」が一層強まるように努力しようと思いを新たにラメチャップを後にしました。

(支援者サービスグループ 伊藤久平 左端)





干し柿プロジェクト

～仮設住宅団地の方々の交流から生まれたプロジェクト～

仮設住宅団地でのコミュニティ作りに繋がる活動の一つ、「干し柿プロジェクト」は、11月に仮設住宅団地6カ所で実施しました。「干し柿作りに参加しませんか?」と、仮設住宅を1軒づつ声掛けすることは、安否を確認したり、会話をするきっかけともなります。干し柿づくりに集まった人々の間で話に花が咲き、笑顔がこぼれました。

「大船渡は枯露(ころ)柿っていう干し柿が有名なのよ。」地元の方からそんな言葉を聞いたのはお盆も過ぎ、そろそろ涼しくなってきたかなというある日の昼間。まだ小さく青い実を目にする時に聞いたお話は、その数カ月後、「今年は豊作だ」と皆が声を揃えて言うほどの鈴なりになった柿を使った“干し柿プロジェクト”に形を変えました。なるほど、有名だと言われるだけあって大船渡を歩けばそこら中に柿がたわわに実っているのです。仮設住宅団地の近くの柿の木を見つけ、持ち主の方に協力をお願いすると、「全部使っていいよ!」、「家では干し柿にしないから助かるわ」などと快諾してくださいました。また、なかには一緒に柿をもいでくださったり、皮を剥く作業に参加してくださる方もいらっしゃいました。

さて、このプロジェクト、蓋を開けてみると意外な事だらけでした。チャイルド・ファンド・ジャパンの主催であるにも関わらず、お母さん、そして時にはお父さんが干し柿ってものはこう作るもんだと他の方々を指導してくださるのです。そして、柿の干場も率先して作ってください、私たちスタッフや酪農学園の学生ボランティアはただただその指示に従うばかり。ゴミ袋や柿を縛る紐がなくなると住民の皆さんがすぐに持ち寄ってくださる協力的な姿勢、その全てが嬉しい誤算でした。

地元の方との何気ない会話から生まれた約5,000個の干し柿については、仮設住宅団地でのお茶会に使おうか、はたまた各戸に分配しようかと只今相談中。また、ある仮設住宅団地では婦人部の方々が干し柿を揉んで白い粉がふくように加工して、近くの小学生たちが遊びに来た時にあげるんだとか。仮設住民団地の皆さんが積極的に行なったイベントだからこそ干し柿への愛着も一塩です。
(インターン※ 松尾洋子)



※チャイルド・ファンド・ジャパンでは、JICAの「帰国隊員等NGO活動支援制度」を通じ、青年海外協力隊の帰国隊員をインターンとして受け入れ、東日本大震災復興支援活動を担うスタッフに加わってもらっています。松尾さんは7月18日から1月17日まで活動してくださいました。

- 1 柿採りに挑戦。
- 2 干し柿づくり初心者にも丁寧な指導をいただきました。
- 3 干し柿を作った後の笑顔(前から3列目の右端が松尾さん)。



スリランカから vol.11

アーユボーワン



チャイルドからのお手紙は何語？

アーユボーワン:シンハラ語で「こんにちは」

スリランカからの手紙が届いたとき、チャイルドや親たちが書いた文章をご覧になったことがありますか？それらは、シンハラ語もしくはタミル語で書かれています。シンハラ語はインド・ヨーロッパ語族、タミル語はドラヴィダ語族に属しており、異なる言語です。

スリランカはイギリスの植民地時代は英語が公用語でした。1948年の独立後、スリランカの人口の約7割が話すシンハラ語が公用語となったことから、2つの言語(民族)の間で対立が次第に深まり、1983年に内戦が勃発しました。1987年にタミル語(人口の約2割)も公用語として定められました。内戦は2009年に政府軍がタミル系の反政府勢力を制圧し終結しました。

今でも公用語であるにもかかわらず、タミル語では役所などで手続きができなかったり、シンハラ語を話す人に比べ、タミル系の人には雇用の機会が少ないといった状況があります。

このように、スリランカでは民族や言語の違い、歴史的に形成されてきた力関係などによる複雑な社会状況があります。チャイルドからの手紙を読むとき、チャイルドたちが住むスリランカの社会状況についても思いを巡らしてみてもはいかがでしょうか。

*参考文献 アジア読本 スリランカ
杉本良男編 河出書房新社 1998年



3つの言語で書かれた道路標識。
上からシンハラ、タミル、英語。



支援のプログラム名も3か国語で表示。

フィリピンから クムスタ

クムスタ:フィリピン語で「こんにちは」

vol.2



ところ変わっても…

フィリピンの「バレンタイン・デー」

チョコレートを贈る習慣が定着した感のある日本のバレンタインですが、もともとは紀元3世紀にローマ帝国にいたバレンチノ司祭という聖人が、子どもや動物の病気を治すなど、小さきものに愛を示したことに由来するキリスト教(カトリック)の聖日です。

スペインや北米文化の影響を多分に受けているフィリピンでも、バレンタインは大切な時。やはり男女が愛を伝えあう日として盛り上がり、甘いお菓子はもちろん、カードや花束を贈ったりします。

また、カップルや夫婦に限らず、大切な人に日ごろの感謝のメッセージを伝える日でもあります。学校の授業でハート型のカードを制作して、家族や友だちにおくったりすることも。この時期、チャイルドからスポンサーの皆さんへのお手紙に「Happy Valentine!」と書かれていることがあるかもしれません。チャイルドたちにとってスポンサーはとっても「大切な人」。だから「愛」を示すこの時期に、感謝のメッセージをおくっているのです。



ハートに込められた
チャイルドからの
感謝のメッセージ。

緊急支援「フィリピン台風被害支援プロジェクト」

生活を立て直すために

- 協力期間：2011年12月16日～2012年5月31日
- 支援対象：東ミサミス州カガヤン・デ・オロ市及び北ラナオ州イリガン市の被災世帯。
- 協力団体：ベドロ・カルンソッド・ピース・センター（センター48、運営団体：ザビエル大学）
及びミンダナオ・リソース・インスティテュート・フォー・コミュニティ・デベロップメント

日本でも大きく報道されましたが、昨年12月16日（金）未明、台風21号（国際名：Washi、フィリピン名：センドン）が、フィリピン共和国ミンダナオ島に上陸して、大きな被害をもたらしました。フィリピン国家災害調整委員会（National Disaster Coordinating Council）によると、1月17日現在、亡くなった人は1,257名、負傷された人は6,071名、依然行方が分からない人が182名に達し、12万世帯、100万人を超える人々が被災しました。この事態を受けて、小林毅事務局長が1月18日から20日までカガヤン・デ・オロ市とイリガン市を視察しました。

カガヤン・デ・オロ市で

チャイルドのグレン・ローズ（11歳）が住むカガヤン・デ・オロ市では、12月16日の夕方から翌朝までの12時間に、1ヵ月間の平均降水量に匹敵する180ミリの大雨が降りました。市内を流れるカガヤン・デ・オロ川が氾濫して、グレン・ローズはじめチャイルドたちが住むマカサンディ村にも鉄砲水が押し寄せました。母親の「起きて！急いで逃げるわよ！」という声で飛び起きたのは、夜中の11時過ぎだったと言います。ピューピューと吹く風と大粒の雨の中、押し寄せる鉄砲水に腰までつかりながら、8カ月の赤ん坊を抱く母親について500メートル離れた高台まで何とか逃げることができました。水が引いた後、家にもどると、自宅は10メートルほど流されていたものの、流失は免れました。



本当に怖かったと話すチャイルドのグレン・ローズ。



センターから支給された資材で家を修理するグレン・ローズのお父さん。

イリガン市で

大きな被害の報告を受けて、1990年から15年の間支援した元支援地域のバユッグ・アイランド*を訪ねました。林立するココナツの間に家々が点在する地域でしたが、今は、見る影もありません。海岸近くに張られたテントで、元チャイルドのフロレンシオさん（31歳）と会いました。奥さんと三人の子どもたちを失い、親戚と一緒に追悼のお祈りをしていたそうです。「今も、妻と子どもたちは自分の中で生きている」と力なく話してくれました。



家があった海岸近くで追悼のお祈りを捧げるフロレンシオさんたち。



被害状況を聞く小林事務局長。

* 島を意味するアイランドと呼ばれますが、実際はイリガン湾に注ぐマンドゥヨグ川の河口にできた中州。

支援物資の配布から生活立て直しへ

ベドロ・カルンソッド・ピース・センターはカガヤン・デ・オロ市での、ミンダナオ・リソース・インスティテュート・フォー・コミュニティ・デベロップメントはイリガン市での緊急支援を要請してきました。両団体とも、水、食糧、衣類といった緊急支援物資の配布を行いました。現在は、被災した家族の住宅の修繕や移転を最重点に支援活動を実施しています。こうした要請に応えるため、チャイルド・ファンド・ジャパンは、「フィリピン台風被害支援プロジェクト」の開始と緊急募金（目標500万円）の実施を決定しました。3月31日まで募金を受けつけております。ぜひご協力ください。

現金寄付振込先

● ゆうちょ銀行窓口にある「払込取扱票」に必要事項と「フィリピン台風」とご記入の上、ご送金ください。
また、お申しつけいただければ、郵便局の「払込取扱票」をお送りいたします。

郵便振替口座：00170-8-196462 口座名義：特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
尚、ゆうちょ銀行に口座をお持ちの方は、下記へお振込みいただけます。

〇一九（ゼロイチキョウ）店（019） 当座 0196462 加入者名：特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン

● 三井住友銀行 西荻窪支店 普通預金口座 0920355
口座名：特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン

※お手数ですが、お振込の場合は、ご一報くださいますようお願いいたします。

インフォメーション コーナー

お知らせ

冬募金キャンペーン、 目標までもう一息です!

2011年12月から開始したネパールの「子どもにやさしい学校環境整備プロジェクト」への募金は1月31日現在、6,765,622円(834口)のご協力をいただいております。皆様の温かいご寄付に心より感謝申し上げます。目標の800万円までもう一息です。ご家族やお知り合いの方にご紹介いただける方は、募金グループ(03-3399-8123)までご連絡ください。募金チラシをお送りいたします。



生徒会 (Child Club Meeting) の様子

お願い

書き損じた年賀状で 子どもたちに本を贈ろう!

子どもたちが、読書を通して、夢を拓け、想像力を育む事ができるように、フィリピンの子供たちに本を贈るキャンペーンを実施しています。書き損じハガキ3枚で1冊の本を購入できます。書き損じてしまった年賀状や官製ハガキ、古い未使用の切手などあれば是非ご協力ください。



読書を楽しむ子どもたち

お送りいただくもの:書き損じハガキ、年賀状、未使用の切手
(本の募集は行っていません)

送付先:〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-7-15
チャイルド・ファンド・ジャパン ハガキ係

・「書き損じハガキ」募集キャンペーンのチラシも用意しております。ご希望の方は募金グループまでご連絡ください。
(電話:03-3399-8123)

ご報告

SMILES25号スポンサー 拡大キャンペーンのご報告

前号のSMILES25に同封したチラシでチャイルドのご支援や、スポンサーシップ・プログラムのご紹介を皆さまにお願いいたしました。その結果、新たに18名のチャイルドが支援されることになりました。皆さまのご支援に感謝いたします。引き続きお友だちにスポンサーシップ・プログラムをご紹介いただける方には、紹介キットをお送りしますので、募金グループ(03-3399-8123)までご連絡ください。

ご報告

チャイルド・ファンド・ジャパンの Facebookページを開設しました!

Facebook(フェイスブック)ページを開設いたしました。チャイルド・ファンド・ジャパンからのお知らせやイベントを随時発信していきます。是非「いいね!」ボタンを押して、最新情報を受け取ってください。
<http://www.facebook.com/ChildFundJapan>
(ホームページのパナーからもアクセスできます)



お知らせ

領収証の発送が完了しました

2011年にご送金いただきましたご寄付の領収証の発送が完了いたしました。スポンサーの皆様には、1年間にいただいたご寄付を合算してお届けしました。プロジェクト・サポーターの皆様には、ご寄付の度に領収証をお届けしております。チャイルド・ファンド・ジャパンは、2009年4月1日に、国税庁長官より『認定NPO法人』として認定されました。お届けした領収証は、確定申告の際に寄付金控除の領収証としてご利用いただけます。なお、2011年6月、新しい寄付税制が盛り込まれた税制改正の法令が公布・施行されました。所得税、法人税に加えて、自治体によっては個人住民税の寄付金控除を受けていただけます。ご不明な点がございましたら、会計・庶務グループ(03-3399-8123 平日9:00~17:45)までご連絡ください。

ご報告

チャリティゴルフ大会のご報告

第7回スマイリング・パートナーズ チャリティゴルフ大会が行なわれました。(2011年11月30日 主催:スマイリング・パートナーズチャリティゴルフ大会実行委員会 代表篠塚和典さん) 快晴の一日、246名がご参加くださり、プレイを楽しんでいただきました。このゴルフ大会を通して、フィリピンのチャイルド20名と、ネパールのチャイルド5名をご支援いただいております。



優勝者(左から2番目)と篠塚和典さん(右端)、司会の徳光和夫さん(左端)賞品を渡すデラ航空の海員哲生さん

お知らせ

世界中の子どもに教育をキャンペーン 2012が始まります!

チャイルド・ファンド・ジャパンは、途上国の子ども支援を行う団体からなる教育協力NGOネットワーク(JNNE)のメンバーとして、「世界中の子どもに教育をキャンペーン」を実施しています。このキャンペーンには、昨年は、270校、35,371名が参加しました。2012年は、「震災から見てきた教育の大切さ」をテーマに、身近なところから地球規模に視野を広げ、世界中の誰もが教育を受けられるために何ができるか、呼びかけます。キャンペーンの詳しい内容につきましては、プログラム・グループ(担当細井:03-3399-8123)まで。ホームページのパナーのリンクからもキャンペーンサイトをご紹介します。



ChildFund
Japan

Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンは
ここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に
基づいて活動します。

ビジョン(目標)

すべての子どもに
開かれた未来を約束する
国際社会の形成

ミッション(使命)

生かし生かされる
国際協力を通じて
子どもの権利を守る

チャイルド・ファンド・アライアンス

ChildFund
Alliance

人種、宗教、性別、国籍を問わず世界の子どもたちに、効果的な支援活動をするためのネットワークで、子どもたちに向けたスポンサーシップ・プログラムを行う12団体から構成されています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月に加盟しました。

スマイルズ

<チャイルド・ファンドより SMILES> 2012年 2月発行
〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン
理事長 深町正信 事務局長 小林毅
TEL. 03-3399-8123 FAX. 03-3399-0730
E-mail: childfund@childfund.or.jp
URL: <http://www.childfund.or.jp/>

(デザイン)
モステデザイン研究所
(印刷)
有限会社東西印刷

